

# 特別賞 賞 CLA 2009

## 浜松モザイカルチャー世界博2009

中央コンサルタンツ株式会社 三浦利夫・西川裕之・木村 光・小名紀寿

### □ 整備の概要

本作品は、2009年9月19日から2009年11月23日までの66日間、浜松市で開催された「モザイカルチャー世界博2009」の会場整備計画・設計・監理である。「人と自然のシンフォニー」をテーマに、会場となったはままつフラワーパークの地形や樹林等の自然環境、温室や花壇等の既存施設を活かしながら、来場者に感動と驚きを与える博覧会を演出するため、会場の基本計画、作品展示および会場修景計画のほか、施設、建築、給水・電気設備に関する設計を行った。

### □ 設計のポイント

【展示作品計画】

- ・会場をテーマ別に3ゾーンに分け、テーマカラーやテーマ植栽を設定し、作品を彩る花壇、作品の連続性に配慮した効果的な演出を行った。
- ・噴水池、日本庭園、花壇、修景木、緑豊かな樹林地等の既存施設を有効に活用するため、現地で90作品の位置をプロットし、既存の地形や樹木との取り合い、作品間の離隔、園路からの見え方等を検討した。

### 【施設、建築、給水・電気設備設計】

- ・豊かな自然環境と起伏に富んだ地形であるフラワーパークを会場とするため、大規模な造成や樹木の伐採を避けて、園路、広場計画を設定した。そ



ゾーンごとのテーマに合わせて作品を配置し、花や低木による彩りを演出した

作品概要

作品名：浜松モザイクカルチャー世界博2009  
 所在地：浜松市西区館山寺町地内 はままつフラワーパーク内  
 発注：財団法人浜松観光コンベンションビューロー  
 浜松モザイクカルチャー世界博2009推進本部  
 会場計画プロデューサー：千葉大学田代順孝教授  
 設計：中央コンサルタンツ株式会社  
 設計協力：株式会社戸田芳樹風景計画  
 監理：中央コンサルタンツ株式会社  
 施工：須山建設株式会社、日管株式会社、松川電気株式会社  
 設計期間：2008年7月～2009年3月  
 施工期間：2009年4月～2009年9月  
 規模：約29 ha  
 主要施設：モザイクカルチャー作品展示計画、会場修景計画（修景花壇、サイン、ライトアップ等）、建築設計（本部棟、総合案内所、野外ステージ等）、設備設計（受変電設備、受水槽等）

作品評

浜松モザイクカルチャー世界博2009は、3年に1度開催されるコンベ形式の国際イベントであり、日本では初めて開催され、66日間の期間中、目標の80万人を上回る86万人の入場者を迎え、閉会した。  
 本作品は、「人と自然のシンフォニー」をテーマに開催された浜松モザイクカルチャー世界博2009における、会場の作品展示計画、会場修景計画、植栽設計、既存施設改修、建築・設備設計である。  
 既存公園を利用した会場整備のため、既存施設・地形・樹林に配慮しながら会場の整備を行うこと、会期後も施設の有効利用が図れる整備が求められたこと等、制約要素が大きかったことが想像されるが、会場設営の検討を緻密に積み上げたことがこのような国際イベントを成功に導いたものと考えられる。

のため、来場者の多い休日には、主園路の一方通行化を図る等、管理運営計画と併せた整備計画とした。

- 会場のフラワーパークは供用後30年が経過し、給水・電気設備や便益施設が老朽化していたので、66日間の会期中、80万人の来場者に対応できる施設とするため、既存の設備を活用しつつ、施設の改築・更新を計画した。また、会期後、整備した施設の有効利用に配慮し、施設の一部は仮設施設で対応する計画とした。

【会場修景計画】

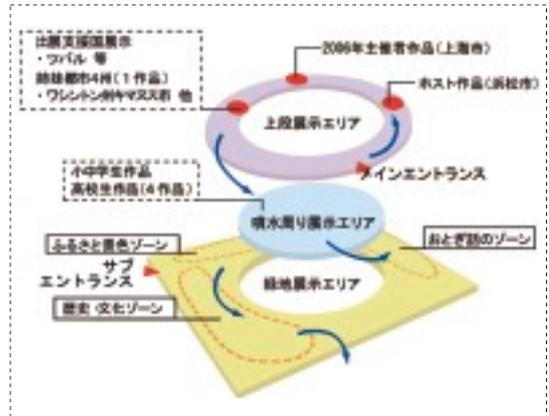
- 会場内のサインは、浜松市内の間伐材を活用し、シンプルなデザインで統一し、会場内に配置・計画した。
- 博覧会としての祝祭性（ハレ）を演出するため、カラフルな布地を用いたスクリーンウォール、ゲートウォールを設置するとともに、作品のライトアップを計画した。



モザイクカルチャー作品（浜松市）



流れに沿って設けた園路



作品のテーマグルーピング空間の設定



各種イベントに対応する野外ステージ



作品を彩る修景花壇



間伐材を利用したプランター



来場者を出迎えるゲートウォール



ハレの演出をするスクリーンウォール（夜間ライトアップ）



案内サイン